



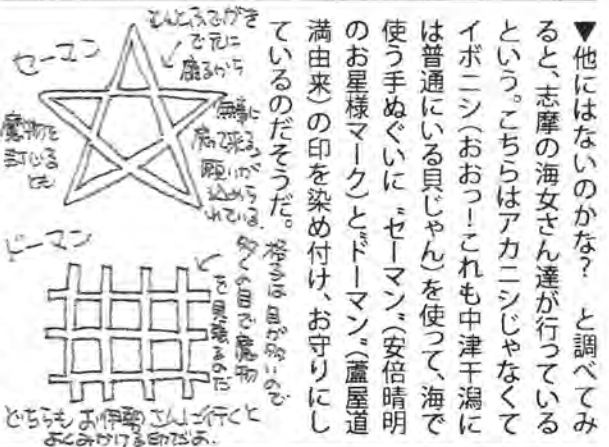
「貝紫色」という色がある。赤みの強い紫でロイヤルパープル(王者の紫・帝王紫などと呼ばれる。紀元前千六百年、地中海のフェニキアという都市で生まれた染色法は、小さな巻貝を何万と集め、殻をつぶし、その汁を布に塗りつけ日光にさらすという奇想天外な方法。取り出したときには貝の汁(正しくは分泌液)は黄褐色なのだが、あーらフシギ!お日様にあたる時きれいな紫色になるのだぞうだ。小さな巻貝から、ほんの少ししかとれない紫色は、特権階級にふさわしい高貴な色として高値で取引されたという。シーザーのマントもクレオパトラの船の帆もこの紫だったらしいよ。なんかすごい。

▼さて日本ではどうかというところ...  
正倉院の御物や吉野ヶ里で出土した布にその痕跡が見つかったというらしい。美しい紫の布は、長い時と距離を超えて私たちの祖先にももたらされたのだらう。聖徳太子の冠位十二階の一番高貴な色も貝紫が由来だったのかもしれないね。しかも、吉野ヶ里の貝紫は、なななんと!!中津干潟じゃ普通に見られる巻貝のアカニシで染められたものだぞと知ってびっくり。

▼他にはないのかな? と調べてみると、志摩の海女さん達が行っているという。こちらはアカニシじゃなくてイボニシ(おおつ!これも中津干潟には普通にいます貝じゃん)を使って、海で使う手ぬぐいに「セーマン」(安倍晴明のお屋敷マーク)と「トーマン」(蘆屋道満由来)の印を染め付け、お守りにしているのだぞうだ。

▼そつなのだ。全国のガタガタ読者ならもうおわかりだらう。こんな楽しい話にあやしい干潟調査隊が飛びつかないわけがない。しかも!今年の春から我がK-I-Y-O-S-H-I兄さんはアカニシ漁に行ってきたかたか??

何たる偶然。もうこれはやってみるしかないでしょ。ついでに、夏の暑い日に貝紫染めに挑戦したのだ。



▼アカニシ染めに協力して下さったのは大分大学のTセンセ。かわいいお姉さんだよ。ひがたらほの前に即席タープを張って、いざ挑戦だ!

アカニシの殻をハンマーでたたき割って(アカニシちゃんごめんよ許せ!)、身を取り出す。これだけでも結構大変。でもって染め物に使うのは内臓の一部の鰓下腺(パープル腺)という場所。よく見ると、あつたあつた、黒っぽい部分がある。包丁でそとと切ってみると、蛍光黄色な液が出てくるぞ。しかし、あまりにも小さい。でっかい立派なアカニシちゃんでも4x30ミリくらいしかないよ。

これでどのくらい染まるん?  
てかさ、ホントに染まるん?  
アカニシでこのサイズなら、あのちっさいイボニシだといつたどのくらいいるんだよー!。気が遠くなりそう。そんなに使ってさ、昔の地中海では「王様のマントのために巻き貝ゼツメツしましたー(泣)」なんて事件は起こらなかったのか??

※いや、実際起こったって言うマフサもある。(裏につづく)

古代地中海からクレオパトラ、正倉院に吉野ヶ里、海女さんまで、貝の文化と中津干潟は、はたしてどごごごながつていくのか??



■活動報告(2017.6.1~2017.8.31)

- 6.4 大新田海岸ビーチクリーン 松林再生活動
  - 6.6 三毛門小4年生干潟学習講師
  - 6.8 三郷小4年生山川海の学習講師 東中津中1年生環境学習講師
  - 6.9 大分県文化財審議会視察受入 三毛門小4年生干潟観察講師
  - 6.12 吉富小4年生干潟観察講師
  - 6.13 中津市六次産業ヒアリング
  - 6.16 中津市家庭教育講座講師 おおいたうつくし作戦連絡会出席
  - 6.22 吉富小4年生干潟観察講師
  - 6.25 おさかなホネホネ教室開催
  - 6.30 大分県森林づくり会議出席
  - 7.5~6 RDB調査(ベントス・魚類)
  - 7.8 貝紫染めW.S.
  - 7.13 如水小4年生干潟学習講師
  - 7.14 本耶馬溪公民館生涯学習講座講師
  - 7.15 大新田海岸草刈り
  - 7.17 宇島漁協海岸清掃参加
  - 7.20~8.24 夏休みひがたらほ会館業務
  - 7.21 「みんなで守ろう地元の海岸を」参加
  - 7.22 夏休み干潟観察会開催 「みんなで守ろう地元の海岸を」事例報告 TOS「海とつぼんプロジェクト」取材
  - 7.25 山国川河川事務所河川功労者表彰
  - 7.27 ひがたかふえ「カブトガニ」
  - 7.28 RDB調査(ベントス)
  - 7.29 底曳き網のおさかな観察開催 カブトガニ調査
  - 8.2 大分県多自然川づくりコンペ審査
  - 8.5 日田市立博物館干潟観察会講師 カブトガニ調査
  - 8.6 天津小4年生五十石川の学習講師
  - 8.10 中津社協「さんぽ」受入
  - 8.17 ひがたかふえ「古代豊前地方の水辺」
  - 8.18 山国町婦人会飾り海苔巻き教室
  - 8.19 標本づくりW.S.
  - 8.20 シギチドリ類調査 アカテガニ産卵観察会開催
  - 8.24 RDB調査(植物)
  - 8.28 大新田松林にて樹木医の指導
  - 8.29 三郷小通学合宿飾り海苔巻き教室
- ★夏休みひがたらほ: ミニクラフト  
7.24~粘土でカブトガニを作ろう  
7.30~折り紙で鳥帽子を作ろう  
8.7~貝のキーホルダーを作ろう  
8.15~干潟のいきものぬりえアート  
8.20~漂着物でビーチクラフト

H29年度の活動にご支援をいただいています。ありがとうございます。

セブン-イレブン記念財団様  
TOTO水環境基金様  
SAVE JAPAN PROJECT様

行事の詳細は順次お知らせします。

水辺に遊ぶ会今後の行事予定

※日程は変更になることもあります。詳細はお届けするチラシやホームページで確認してください。

大新田ビーチクリーン&松林作業 ● 9月17日(日)9:00~10:00  
飾り海苔巻き教室 ● 10月29日(日)9:30~12:00  
復活!浜遠足 ● 11月3日(祝)13:00~15:30(予定)  
大新田ビーチクリーン&松林作業 ● 12月10日(日)9:00~10:00

●お魚料理教室(11月か12月開催)、ベッコウトンボの池再生活動(11月下旬)も現在日程調整中です。ご参加よろしくお願ひします。

ひがたかふえ 9月28日(木)18:00~20:00 参加費300円(軽食付) ひがたらほ

●「環境や生きものの専門的な話が聞きたい」とか「子どもが大きくなってイベントには参加しにくいけど、おしゃべりはしたいのよねー」というお声にお応えして?サイエンストーク(30分程度)とおしゃべりの会をはじめました。  
●9月のテーマ「中津干潟の考古学」 話題提供: たこつぼ博士

●ありがとうございました●  
国土交通省山国川河川事務所様より功労者表彰をいただきました。  
夏休み「海の絵コンテスト」にてたくさんの応募をいただきました。ただ今審査中です。

★ボランティアさん募集中★

★大新田松林の松葉かきや草刈りをお手伝いくださる方★  
グループでの松葉かきも大歓迎です。

★松葉堆肥(土壌改良材)を畑で使用して下さる方★

★水辺に遊ぶ会のイベントをお手伝い下さる方★

★水辺に遊ぶ会のイベントの企画を一緒に考えて下さる方★

ひがたらほに遊びに来てね

開館時間 10時~16時 土日祝日休館

電話:0979-77-4396 (ひがたらほ平日9:00-17:00)  
080-5248-7443 (ひがたらほが留守の場合)  
FAX:0979-77-4396  
info@mizubeni-asobukai.org  
http://mizubeni-asobukai.org/

初めての方、久しぶりの方、たくさんのお客様に訪問していただいた毎日でしたが、楽しく過ごしていただけたかどうか気がなる秋です。来年の夏休みはもっと干潟を感じるワークショップを企画したいと思っています。そして、ひがたらほ、もっと広いといいよねー。



貝の文化と中津干潟は、  
はたしてどうつながっていくのか？  
：話は続くのだ。

▼さて、気を取り直してパール腺の周辺の肉を黙々と包丁で切り出し、水を加えてジューサーにかけて。うっひゃー。黄土色のいかにも不味そうなスムージーのできあがり。これをおおるおおる筆で取って布に絵を描く。そしてお日様の下に置くと、あーらフシギ！ 見る見る黄土色が紫色に。なんでー？？？ふしぎーおもしろーい。たのしー。

技術的にアヤシげな部分と科学的な追求はとりあえず横に置いて、アカニシで貝染めができることはわかった。これからいろいろな試行を試みて、うまいことできたら、来年の夏はみんなと一緒に不思議な貝殻染めができるかもよ。ふふ。オタノシミに。

▼染料取った残りの身は、ポイルしてスライスしていつものお刺身に。うまうまー。オリブオイルとニンニクと鷹の爪で炒めたり、ピザにのせたり、堪能しました。KEYOSHII兄さんのアカニシサイコー。

▼アカニシは中津干潟では普通に見られる貝。食卓にも上がるわりと身近な食材だ。縄文時代の貝塚からも見つかったから、昔の人も食べていた貝。それだけじゃない。ヒモをつけて海に沈めてイイダコを捕るのにも使われていた。たこぼれ体験漁でやってみたことあるよね。中津人の生活にずーっと関わり深かった貝なのだ。ひよつとしたら、古代中津人も紫の布を染めていたりしたかもしれない、と思うとなんだかワクワクするね。

▼古代ローマでは「貝で染めた布には力が宿る」という言い伝えがあったとか。アカニシから力をもらえるかなあ。すごい力を得ちゃったらどうする？水辺に遊ぶ会。もっちゃん、中津干潟の生きものたちや漁師さんが元気で、子どもが楽しく遊べる豊かな海のために頑張っちゃおうよ。うん。

新しい夢が膨らむ水辺に遊ぶ会ナノダ。

：でもね。このきれいな紫色をつくりだすアカニシスムージー、とー！ー！ってめくさいってことはナイシヨにしておこう。

### アカニシ(赤螺)

軟体動物腹足綱吸殻目アツキガイ科

よい子の里海里浜 図鑑

●内湾を中心に比較的浅い海に生息する中型の巻貝。中津干潟では磯場や沖の砂地にうろうろしている。殻の入り口が濃い橙色でつやつやしている。肉食性で、ハマグリやアサリを食べるため、漁師さんを悩ませる貝だが、瀬戸内海では食材としても美味しく食べられている。

## 夏のミステリー ひがたらばのスイカを食べたのだ誰だ？

この夏、ひがたらばの前の空き地によきにょぎ一本のツルが伸びてきた。なんじゃろ？と思っていると、黄色い花が咲いて、小さな実ができて、あれよあれよという間に縞々模様のスイカになった。しかしなんでスイカ？と考えると、そうだよ。去年の事務所開きの時、ここでスイカ食べたじゃん。あの種から芽が出たんだねえ(ホントか？)

アヤシイ干潟調査隊の隊長はスイカを食べるのを楽しみに、毎日観察していたのだが、ある朝事件が起きた。スイカに穴が空いて中身が食べられている。

「くー、カラスのやつ(泣)」と涙目になっていると、「それ、カラスじゃなくてタコだよ」という人がなぜか数名。

そういえば、お年寄りに海の話をしてアタリに行くところ、夜中にたこが海からあがってきて、畑のダイコン引いてくわの知つちよるか？とかが、「タコはナスビが好物だけん、夜中に畑にやってきてナスビを食べよるのよ」とかおっしやる方が結構いる。ホントウナンタコウカ？でもスイカは初耳だ。

ちなみにググってみると、なんとタコが畑のスイカを捕っていくという話は結構あるぞ。ダイコンとかイモとか柿とかいろいろな説もあった。(ナスビは中津だけか？)実際に畑でイモを食べるところを捕獲されたという新聞記事やニコースもあるらしい。びっくりなことに映画まである。「海魔陸を行く」という作品で、漁師にかまって酢タコにされそうになっ

## 2017年のなつやすみ、いろんなことに挑戦したよ

シャミックの本格インドカレーキッチン

底曳き網の生きものたち

ちっさいもの倶楽部

会長のカニ講座

カブトガニの回帰見えた？

鳥のぼうし折り紙

スノードームづくり

生物標本づくり

50センチ四方の丸き紙を折ります。

まっ毛 5回!!

Good!!

シマツグさん 母の料理にやって 菜の花の 飾りつけ

おのびのび オスロの中を ぼろぼろと

テニジクダイの 10/10

かぶつがに

いんじご 標本をつりました。

たタコが逃げだして、海に帰るために大冒険！みたいな何ともファンタジーなストーリーらしいよ。

この話題、掘り下げるといろいろおもしろそつなんだけど、読者の皆さん、そんなウフサ知ってますか？ 知ったら水辺に遊ぶ会までこの一報を。

●あのね、海の小さい生きものをひとひとに見たいよ。

海の底にはいっぱい海の仲間がいてね、あかちゃんだったり、大人だけど、小指の爪より小さかったりして、調べてみたらおもしろかった。

海の中って宇宙の星の数より多くの生きものがいるのかも。それがきれいな色、ふしぎな形で、ぶーかぶかしてるの、一度見てみたいね。

この絵本の生きもの、とつめいなのにキラキラして、ゆめに出てきてたよ。(せ)

●春にひがたらばを訪ねてくれた日焼けした南の島の青年の写真絵本です。応援します。また中津に遊びに来てほしいなあ。

### 海の紹介

ただよつ海の生きもの

写真 高久 至  
文 寒竹 孝子  
発行 アリス館